

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会		主 査 名：横山 裕 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：井上勝夫 主 査 名：濱本卓司
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境振動にかかわる最新の研究、および実務の動向に関する情報収集や、国際基、規準(案)にかかわる審議などを行う。 ・環境振動評価の現状や問題点の把握、および課題の抽出を行い、今後の環境振動評価のあり方を模索する。 ・環境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及を図る。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 石川孝重(日女大), 植松武是(道立北方建築総合研究所), 内田季延(飛鳥建設), 大築民夫(清水建設), 川久保政茂(円石コンサルタント), 小泉達也(大林組), 新藤 智(法大), 鈴木雅靖(鹿島建設), 塚越治夫(日建設計), 野田千津子(日女大), 花里利一(三重大), 濱本卓司(武工大), 益田 勲(日本交通技術), 森下真行(前田建設), 横山 裕(東工大)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2007 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：環境振動運営委員会の HP 内に議事録など公開 委員会 HP アドレス：環境振動運営委員会の HP よりアクセス	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境振動設計手法確立のための具体的検討を行い、設計図書程度の情報から床振動の程度を簡便に予測する方法などをおおむね確立した。 2. 近年の都市, 建築状況を反映して新たに顕在化することが予想される様々なタイプの環境振動問題を抽出し、情報収集を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 新たに発足した設計法に関する小委員会の活動と連携を取り、性能評価手法や設計手法確立のための作業を効率化してゆく必要がある。 2. 新たな課題として抽出された超高層建築物で地震時に発生する長周期大振幅振動下での居住者の反応や安全性について、検討してゆく必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度までの活動の結果、環境振動で取り扱うべき新たな課題として低周波音(振動)の建築的な評価について検討する必要性を明らかにし、低周波音(振動)に関する居住性能評価検討WGの発足に結びつけた。本年度も、このWGと連帯をとりながら、評価手法のあり方などについて議論した。 2. 環境振動設計手法を確立するための活動として、人間の動作時に発生する床振動の程度やその評価値を設計図書程度の情報から簡便に予測する方法を具体的に検討し、RC造建築物の床振動の予測方法をおおむね確立した。 3. エンドユーザーである一般市民が認識する振動環境の重要度、居住性に与える影響度合、あるいは設計の際の優先度などについて調査を実施し、学会の居住性能評価指針に示された知覚確率曲線(V曲線)の位置付けや性格などを明らかにするとともに、環境振動設計手法で参照する評価値の設定方法などに関する具体的な議論を積み重ねた。 4. 環境振動で新たに取り扱うべき課題として、地震時に超高層建築物で長時間に渡って発生する長周期大振幅振動下での居住者の反応や行動特性などを抽出し、安全性や快適性などの観点からの評価方法の必要性や問題点などについて議論を始めた。 5. これまでおもに個々の建築物単位でなされてきた環境振動の評価を、建築物を群としてとらえ地域単位で行うことの必要性、重要性を議論し、そのための技術的課題などについて情報交換を行った。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。